

平成29年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）最終評価（学校評議員会資料）

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸ばさせ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。</p> <p>このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。</p> <p>特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。</p> <p>(1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化</p> <p>(2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成</p> <p>(3) 地域・保護者に信頼される学校づくり</p>	<p>昨年度の成果(○)と課題(△)</p> <p>○キャリア教育の充実と組織的・系統的な進路指導</p> <p>卒業生などの協力によるキャリア教育の内容は向上、学力分析等、土台の拡充進む</p> <p>国立大学現役合格45人となり、私大合格も増え、多くが希望の進路を達成</p> <p>○数理科学科・美術工芸専攻における特色ある活動は充実、普通科における高大連携も進む</p> <p>△亀高改革会議をとおした改革は道半ばである</p> <p>○広くて丁寧な広報 広報の改善により、本校教育活動についての理解を得られ普通科で志願者増ただし、数理科学科の教育内容を広報しきれず課題を残す</p> <p>○△確かな学力育成と組織的授業改善</p> <p>家庭学習定着が向上、個人レベルで積極的な授業改善も、組織的な取組に課題を残す</p> <p>○特別活動、部活動の充実、生徒の自主性の育成 活発な生徒会活動、高い部活動加入率</p> <p>○「社会に通じる人」の育成 Can-Doリストの改善を行った。挨拶・身だしなみ・時間厳守の姿勢などでより向上</p> <p>○人権尊重の視点を持った教育活動 障害者差別解消法の趣旨に基づく「合理的配慮」についての理解は進んだ</p> <p>△身近な教育環境の改善 中庭の活用等、構想は進んだが、実現には至らなかった</p> <p>○国際社会での活躍に向け基盤力育成ートビタテ留学ジャパン3人を含む5人が海外留験</p> <p>△読書活動 一部の学年で図書館利用が少なかった</p>	<p>本年度学校経営の重点</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの研究をはじめ、組織的に授業の改善を行う。</p> <p>(2) Can-Doリストを活用し、「社会に通じる人」への生徒の成長をサポートする。</p> <p>(3) 部活動、特別活動などを通じ、学校生活に主体的に参加する姿勢を育成し、自主性を涵養する。</p> <p>(4) 将来を見据えた進路意識にもつづき、志を持った自主的な進路選択ができるよう、キャリア教育を充実させるとともに、組織的・系統的な進路指導を行う。</p> <p>(5) 中学校や地域などへの広く丁寧な広報を行い、本校の教育内容全般を周知し、本校教育活動への理解・支援につなげる。</p> <p>(6) 障害者差別解消法や部落差別解消推進法などの趣旨に則り、人権尊重の視点を持ってあらゆる教育活動に取り組む。</p> <p>(7) 安心・安全かつ、勉学への意欲を向上させる教育環境の整備を図る。</p> <p>(8) 改定3年目を迎える教育課程を総括し、次期学習指導要領にかかる中教審審申や高大接続改革の方向性に沿って、教育課程の検討を行う。</p> <p>(9) 国際社会で活躍する人材の育成を目指し、その基礎となる力を育成する。</p> <p>(10) 教職員一人ひとりが、全体の奉仕者として、いっそうのコンプライアンス意識をもち、協働して教育課題に取り組む、生徒、保護者及び府民の本校教育に寄せる信頼を高める。</p> <p>(11) 学びの基盤となり、人生を豊かにする読書への積極的な姿勢を醸成する。</p>

評価
A 十分達成できている(目標以上の成果が得られた)
B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた)
C 達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない)
D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	魅力ある学校づくりの取組	1 亀高改革会議を推進役とした学校改革の推進	B	会議を立ち上げ運営した。今後の社会で求められる力について検討し、新設する総合的な学習の時間「ジェネリックスキル」の内容やCan-Doリストの改善を検討した。
		2 高大連携を初めとする普通科における特色ある教育活動	B	講演会の実施や体験授業など、京都府の事業を効果的に活用し、連携することができた。
		3 普通科美術・工芸専攻の充実	A	大学との連携や小学校への出前授業などを積極的に実施するとともに、絵画制作を通しての社会貢献もできた。また、美工展の開催や各種展覧会への出品など作品制作面においても活発に実施できた。
		4 数理科学科における探究学習の深化と普通科への波及	B	成果の発表会を行うなど、探究学習を実施している成果は、進路実績にも表れていると言える。また、数理科学科の学年を越えたつながりが、引き継がれている。地域行事への参加も積極的に行った。
		5 本校教育活動全般についての広く丁寧な広報活動	B	中学校や地域に対して、亀岡高校の魅力を発信することができた。結果、志願者確保につながった。
		6 卒業生、PTA、地域の方などの協力を得た取組の充実	A	各種行事におけるPTAの協力により、活動を盛り上げることができた。卒業生を招いての講演会や交流会を開催し、キャリア教育を充実させることができた。
		7 コンプライアンス意識を基盤とし、連携と協力による教育課題への取組	B	コンプライアンス意識を高めるため、教職員研修を多岐にわたり実施し意識付けを行ったが、具体的な取組ができなかった。
教育課程・学習指導	確かな学力を育てる教育	8 次期学習指導要領・高大接続改革の方向性を見通した教育課程改革	B	平成30年度入学生教育課程から、総合的な学習の時間「ジェネリックスキル」を設定するなど、新学習指導要領や高大接続改革の方向性に沿って、今、社会で求められる力をつける改革を行った。
		9 主体的・対話的で深い学びの研究を初めとする組織的な授業改善	B	授業公開を積極的に実施したり、教科横断型授業を試行するなどした。
		10 家庭学習等主体的な学びを促す指導の充実	B	学習時間調査を実施するなど、家庭学習の充実を図ったが、自主的な学習スタイルを確立するところまではできなかった。
		11 学びの基盤となり人生を豊かにする読書への積極姿勢の醸成	B	教科と連携した授業等での利用促進を図った。出張図書館の実施や図書館だよりの発行、ツイッターによる発信などを行った。
進路指導・キャリア教育	将来を見据え、志をもって進路にチャレンジする生徒の育成	12 将来像を描くためのキャリア教育の充実	B	進路指導部と学年団が連携し、進路ホームルームを充実させ、進路目標を明確にし、目標実現に向けて行動するきっかけを作った。
		13 Can-Doリストの積極的な活用による「社会に通じる人」の基礎力育成	B	改革会議を中心に、月光改革の方向性に沿ったCan-Doリストの見直しや効果的な活用方法について検討した。
		14 組織的・計画的な進路指導の充実	B	3年間を見通したキャリア教育の計画を進路指導部で企画したが、十分な時間を確保することができなかった。次年度以降、総合的な学習の時間も活用した学習にしていきたい。
		15 選挙権年齢の18歳以上への引き下げに対応した主権者教育の充実	B	架空の市長選を設定した模擬選挙や生徒会選挙時に実際の選挙時の投票を想定した模擬投票を実施した。また、ホームルームで担任による講義を行ったが、十分なものとは言えず、全生徒の意識を高めるまでには至らなかった。
	豊かな人間性をはぐくむ教育	16 学校生活の基盤となる落ち着いた生活習慣のさらなる向上	B	朝の遅刻は、ほとんど無い。遅刻指導時間後に登校する生徒の把握・指導は課題である。身だしなみの面はしっかりできるようになっている。スマートフォンの利用時間が、長い学年になると1日2.5時間近くになり、生活習慣を乱す原因の一つになっていると言える。
		17 規範意識の基盤としての倫理観の醸成	B	折に触れ生徒への投げかけや資料提示などを行い、生徒の意識を高めるようにしているが、SNSを利用した書き込みが、どのような影響が出るのかイメージを持たせるところまでの指導は十分ではなかった。
		18 特別活動・部活動のさらなる活性化による自主性の育成	B	部活動の入部率は4月には85%程度と高い。特に1年生男子は90%を越えた。今後は部活動を継続させることと、さらに活動実績を上げたい。主体的に学校行事に取り組む中で前向きな集団へと成長させたい。
		19 情報モラルに関する指導の充実	B	折に触れ指導しているが、SNSの利用に伴うトラブル、不用意な個人情報の発信など課題は多い。SNSに関しては、生徒会活動を通じた啓発も進めたいと考えている。
		20 いじめを許さない学校作り	B	「いじめ0」を目指して、いじめアンケート等により状況把握に努めた。生徒の意識向上のため、学校生活の様々な場面で啓発を行うようにしたい。
		21 教育的配慮を必要とする生徒への対応の充実	B	スクールカウンセラーや地域支援コーディネータと連携し、生徒対応を行うようにした。学習やコミュニケーション・対人面での課題がある生徒が広く在籍し、今後も合理的配慮が求められている。そのための教職員研修が必要である。
		22 障害者差別解消法・部落差別解消推進法の趣旨に則った教育活動の推進	B	教職員に周知するとともに、日々の教育活動の中でも意識しているが、更なる充実が必要である。
生徒指導・人権教育	安心・安全・健康的な環境	23 健康・安全意識の向上と施設・設備の管理・改善	B	校内の危険個所の見直しや緊急連絡体制の確認などを再度行い、安全安心に対する教職員の意識を高めるようにした。今後も継続していく必要がある。自転車の利用について、利用時のマナーや安全意識の向上に向けて、指導の充実と徹底を、より強く呼びかけたい。
		24 美化意識の向上と清掃の徹底	B	有志によるクリーンキャンペーンを2回実施した。また、普段から登校前の時間を使って、校外の清掃ボランティア活動を部活動単位で自主的に行っており、地域の方からも好評である。清掃は年間を通して実施したが、徹底しない箇所も見られた。
		25 学校生活に潤いを与え学習へのモチベーションを高める環境作り	B	学習環境の整備に向けてさらに研修を進める。視聴覚室の冷房設備が設置され、補習や研修会等、夏季の活用の幅が広がった。施設の老朽化により、東西キャンパスとも、設備面の不具合が多く発生し、その対応に追われた。
	グローバル人材の育成	26 異文化交流、異文化理解の推進	B	2学期より、1年生に留学生(タイ)を迎え、日々の学校生活で触れ合う機会を持つことで、生徒の刺激になっている。情報提供を行ってはいるが、日常的にグローバル人材を育成するところまではいっていない。
		27 海外留学へのチャレンジの支援	A	海外留学などに複数参加するようになり、学校取組の1つとして定着した感がある。数理科学科では、昨年度に続けて、「アジアサイエンスネットワークINシンガポール」に2名の生徒(昨年度は1名)を派遣することができた。昨年度に続き、文部科学省のトビタテ留学ジャパンから留学する生徒が出た。

研究指定等	府立高校特色化事業(サイエンスネットワーク京都)
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 元氣よく挨拶をできることは素晴らしいことであり、そのまま伸ばしてほしい部分である。 Can-Doリストによる自己評価は、社会に通じる力をつけることに効果的であり、社会へ出てから必要とされる力をつけることにつながる。 指導の成果として、落ち着いた学校生活を送れる環境が作られている。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領、高大接続改革の趣旨を踏まえ、平成29年度に推進した亀高改革の方向に沿って、新総学「ジェネリックスキル」や新Can-Doリストを通じ、社会に通じる力の育成に努める。 安心・安全の意識を高め、教育環境の整備をより進める。 SNSには功罪両面があることを認識させ、使い方についての指導を継続する。 亀岡高校のすべての学科・専攻・コースについて、教育内容の広報活動の充実と工夫を図る。 地域に貢献できる人材の育成を目指す。